

# 課程博士の学位授与申請に係わる審査報告書

学 籍 番 号 13DC1602 (中国研究科 中国研究専攻)

氏 名 ( 本 籍 ) 李 長 銀 ( 中国 )

学 位 の 種 類 博士 ( 学 術 )

報 告 番 号 甲 第 99 号

学位授与年月日 平成 30 年 3 月 20 日

学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当

論 文 題 目 中国互联网金融发展研究

審 査 委 員 主 査 高 橋 五 郎

副 査 李 春 利

副 査 加 治 宏 基

2018 (平成 30) 年 2 月 13 日

愛知大学大学院中国研究科

# 審査の結果の要旨

## 本論文の構成

- 第1章 序論
  - 第2章 先行研究の考察
  - 第3章 グローバル化と中国インターネット金融の発展
  - 第4章 インターネットプラスを背景とする科学技術と金融の融合とその展開
  - 第5章 インターネット経済下におけるネット金融業務の発展と進化
  - 第6章 中国インターネット金融のリスク研究
  - 第7章 インターネット金融監督とネット金融の発展
  - 第8章 結論と展望
- 参考文献

## 本論文の研究背景

2012年、アリババは電子商取引プラットフォームによって蓄積された大規模なユーザーベースに基づいて、急速に国内で最大の基金に成長した。しかし、2014年と2015年にP2P理財会社が急速に発展し、たとえば陸金所（上海陆家嘴国际金融资产交易市场股份有限公司）は185億ドル以上の株式市場評価を得て急速に発展した。これらのインターネット大手企業との競争により、商業銀行は国境を越えた競争からの圧力を受けるようになり、ビジネス変革のための技術に依存するという戦略的ニーズが深まっているのが今日の状況である。

ネット金融機構は、クロスボーダー、新しいチャネル、ロングテール市場（細かなニーズに対応する金融商品）、低コスト、便利なサービス、高いサービス品質の特徴により明らかな比較優位性を持っているといわれている。

同時に、中国では、金融アクセス制御の緩やかな緩和により、金融業界は徐々に大企業の多様化の重要な技術になってきており、多くの企業が金融業に参入するために様々な種類の金融ライセンスを申請している。新規参入者は、金融業界に新しい機能をもたらす一方、商業金融機関はインターネット金融企業のプレッシャーを感じ、高金利でもたらされた長期的なセキュリティ関連の現状を変え、積極的な対応を行っている。商業銀行にとり、外部競争の激化は資産と負債の競争を大幅に悪化させ、その戦略的転換の要求がはますます緊急化している。

本論文は、こうした情勢下の商業銀行の対応を分析、今後の方向性を探る必要性を背景としている。

## 本論文の研究目的

上述した研究背景のもので、中国のインターネットファイナンス事業全体の急速な発展、第三者による支払いの急速な成長とP2Pの財務管理は、伝統的な商業銀行に大きな影響を与え、規制当局の注目を集めている。「インターネット+」の重要な実践として、インターネット金融は中国の金融改革を推進する大きな原動力の1つとなっているため、インターネット金融の体系的な研究を行うことは非常に重要となっている。

本研究の目的は、中国のインターネットファイナンス事業の開発背景、開発状況、規制状況、開発ルール、リスク、将来の発展動向を体系的に整理し、商業銀行のこの面における方向性を明らかにしようとするものである。

## 本論文の研究方法

本研究は文献考察と実際の現状観察を通じた定性研究方法を用いたものである。具体的には、中国におけるインターネットファイナンスの発展をパノラマ的にスキャンし、中国のインターネットファイナンス事業の開発背景、開発状況、開発動向、規制状況などを詳細に考察した内容となっている。

詳細な内容は以下のとおりである。

- ① インターネットファイナンスの意味についての考察。
- ② インターネットファイナンスと金融技術の関係についての考察。

現在、インターネットファイナンスとファイナンス技術というコンセプトは、さまざまな場面で混在している。どちらも金融と技術の収斂傾向を示してはいるが、微妙な違いがあり、ここではその比較分析を試みている。

- ③ インターネットファイナンスの重要な特徴としてのデジタルファイナンス、そのプラットフォームの実態の考察。

## 先行研究の吟味

本研究に関連する先行研究については第2章において詳細な考察が行なわれている。考察は次の諸理論的な観点を吟味しつつ行われている。

- ① 評判理論(Cabral LMB, Hortacsu A, 2004; Kamvar SD, Schlosser MT, Garcia-molina H, 2003 他)。
- ② ネットワークに存在するべき乗則分布分析(Bak P, Weissman M, 1997 他)。
- ③ ロングテール理論 (Chris Anderson, 2004 他)。
- ④ ネットワーク効果理論(Shy O, 2001, Parker GG, Alstyne MWV, 2005 他)。
- ⑤ 二国間市場理論(Rochet JC, Tirole J, 2006 他)。
- ⑥ P2P 的相关研究(冯俊文, 高瑞琼, 2014, 李平等, 2015, 李有星等 2014, 平, 2014 他)。
- ⑦ 産業集積理論(彭德文, 周振拓, 2015 他)。
- ⑧ 金融抑制理論 (Edward S. Shaw, 1974)。
- ⑨ 創造的破壊の理論(张芸婷, 郑刚, 陈劲, 2009)。
- ⑩ ネットワーク経済理論(李长银, 陈慧慧, 高寒, 2015)。
- ⑪ 二国間市場とプラットフォーム理論(Rochet JC, Tirole J, 2003, 2004, 2006)。

## 本論文における研究意義

本研究は以下の意義を持っている。

(1) インターネットファイナンスの発展の背景を研究し、インターネットファイナンスの理解を深めさせるのに役立ったこと。インターネットファイナンスは、インターネットやビッグデータなどの技術と財務の統合と革新である点を明らかにした。

P2P、クラウドファンディング、その他のヨーロッパとアメリカの財産を抱え、最終的には中国で大きな発展を遂げてきたことをあとづけた。第三者決済業界の発展は、ユーザー規模と取引規模の両方において、海外の第三者決済会社をはるかに超えていることを明らかにした。また本論文は、これらの現象の原因を探究し、ブームの背景と中国のインターネットファイナンスの発展を分析したものである。

(2) インターネットバンキングの規制の現状は、中国のインターネットバンキングの全体的な開発の状況を理解することを助長しているが、中国のインターネットの金融発展の全体的な理解に貢献した点を明らかにした。

(3) インターネットのダイナミックな金融サービスの研究や予測の将来の発展のためのイン

ターネット法律、金融、将来の動向の開発は、インターネット金融情勢の未来と全体の金融セクターを把握するために重要な課題となったことを明らかにした。

(4) 将来のインターネット金融ビジネスの発展と規制動向のリスクを研究し、インターネットファイナンスの急速な発展には大きなリスクが伴うこと、同時に、新しいビジネスモデルを誘発し、さらに市場の複雑さが劇的に増加していることを明らかにした。また、インターネットファイナンスビジネスの既存のリスクと今後の規制動向を体系的に研究し、インターネットファイナンスビジネスの課題と発展方向を明らかにした。

(5) 商業銀行のインターネットファイナンス業務への参入の現実を分析し、課題を抽出し、その発展の方向性を示した。

## 本論文の問題点

本研究の問題点は、ネット金融の発展と市場拡大により商業銀行市場の圧迫が続いているとの状況認識のもとで、商業銀行がネット金融に参入する状況と課題に視点を置くことは問題ないにしても、その蓋然性がどこにあるかが十分に明定されず、予定調和的な先入観が否定できないことである。

金融市場競争の原理は「悪貨は良貨を駆逐する」ことにあり、とりわけ中国ではネット金融に関する法規制が完成されないうちに、ネット金融についての現実容認的な市場形成が先行したきらいがある。

しかし本研究では、この点に関する批判的研究が希薄であり、研究の組み立てがネット金融の現状肯定のうえで、商業銀行の対抗軸を構築するとのいかにもなし崩し的な感がまぬかれないう問題を指摘しうる。

## 口述試験における主な質疑

本論の口述事件 2018 年 1 月 18 日に実施され、次のような質疑が行われた。

① 研究分野はどこに属するのか？

答：経済学的である。

② 本研究に関連すると思われるシャドバンキングについての記述がないのはなぜか？

答：関連があることは認識しているが、本研究はインターネット金融に焦点を当てたものであり、シャドバンキングとの関連についてはあえて避けた。

③ 分析のフレームの基本は何か？章によって違う理論が適用されている。

答：先行研究を踏まえ、基本的には商業銀行理論に基づいた。また、Tirole や Christensen などの理論も使われている。

④ 第三者決済は欧米で生まれたが、中国で大発展を迎えた。その理由はなにか。

答：信用取引の発展段階が違う。中国では信用取引の発展が相対的に遅れていたために、かえって第三者決済が早く広がった一面をもつ。

⑤ 余額宝の収益性についてどう考えるか。既存の銀行に対する影響はなにか。

答：既存の銀行業務の拡大や金融サービスの質的向上を刺激した効果が大きい。余額宝の高い金利は事実上の標準、つまりデファクトスタンダードを獲得するための戦略的な狙いがあると思う。

⑥ 本研究に関する政府の役割はなにか？

答：2014 年 4 月、銀監会と中国人民银行共同で《关于加强商业银行与第三方支付机构合作业务管理的通知》を公布するなど、最近では政府の規制・指導が強化されつつある。

⑦ 金融リスク拡大についての対処はどうか？

答：政府は⑥のように一定の役割はあるが、最終的には民間市場が解決すべきものと考え

る。

#### 本論文の審査判定

2018年1月18日、本審査委員会を開き、本論文および口述試験の結果、上述のような問題点はあるものの、全体としては研究成果が大きく、博士学位（学術）にふさわしいとの意見の一致をみた。

以 上

